

# 勝田高校図書館だより

平成30年度 第11号

平成31年2月28日発行



陽射しが暖かく、明るくなり、春の訪れを実感する季節になりました。今年の冬は、気温が高めではありましたが、やはり陽射しに春の暖かさと明るさを感じる頃になると少しほっとします。そして、人間も植物が芽吹くのと同じように、新しい世界を求め心を開こうとする力が頭をもたげてくるように感じます。

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

まだ受験の結果が出ていない人たちや、これから国公立の後期試験を受験する人たちは、まだ「区切り」を迎えた実感はないかも知れません。しかし、時の流れを遅らせることは出来ません。寂しい言い方かも知れませんが、勝田高校での毎日少しずつ思い出に変わりつつあるのです。寂しさと期待を胸に、やはり晴れやかな思いで明日を迎えてほしいと願っています。

図書館の風景も変わりつつあります。常連の3年生が姿を見せなくなり、新しい顔が増える季節です。本と出会い、図書館が日常の一部になった人、受験勉強や小論文の練習場所として通った人、小さな居場所を見つけた人。元気な時も、寂しい時も、心が枯れそうになる時も、本の中に広がる際限のない自由な世界は、皆さんを勇気づけ、時に羽ばたく勇氣をくれると信じています。図書館はいつも静かに皆さんを待っています。明るい陽光の注ぐ図書館で過ごす時間が、いつか皆さんの支えになることを願っています。

## ★図書館からのお知らせです。★

- ◎3年生で図書館の蔵書を借りている人は、本日中に返却をお願いします。
- 防災関連の図書を図書館入り口に、2019年「本屋大賞」ノミネート作品をカウンター正面に展示しています。
- 新着本が入荷しています。
- 高校の入学試験（学力検査）関係で、校舎に立ち入れない日があります。3月は、図書館も不定期に休館日があります。昇降口正面の掲示板に予定を掲示します。注意して利用してください。



←1・2年生の図書委員が「3年生に贈る言葉」を書物や歌の中から選び桜の花びらにしたためました。昇降口正面に掲示してあります。

3年生の皆さん、是非ご覧ください。

## 二月のうた (和歌『万葉集』)



「梅花の歌三十二首并せて序」 『万葉集 巻第五』  
天平二年正月十三日に、師老の宅に萃まりて、宴会を申べたり。  
時に、初春の令月にして気淑く風和ぐ。梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。  
〈中略〉園梅を賦して、聊かに短詠を成すべし。

(訳:「梅花の歌序」天平二年正月十三日に、太宰帥大伴旅人卿の邸宅に集まって宴会を開く。折しも新春の正月の佳い月で、気はよく風は穏やかである。梅は鏡の前のおしろいのように白く咲き、蘭は身を飾った匂い袋のように香りを漂わせている。〈中略〉ここに庭の梅を題として、まずは短歌を作りたまえ。)

818 春されば まづ咲くやどの 梅の花 ひとり見つつや 春日暮らさむ  
筑前守山上大夫

(訳:春になるとまず咲く家の梅の花をひとり見ながら春の日を暮らすことか。)

筑前守山上憶良

822 我が園に 梅の花散る ひさかたの 天より雪の 流れ来るかも 主人  
(訳:わが園に梅の花が散る。天から雪が流れてくるのだろうか。 主人大伴旅人)

「山部宿禰赤人が歌四首」 『万葉集 巻第八』

1426 我が背子に 見せむと思ひし 梅の花 それとも見えず 雪の降れば  
(訳:あの方にお目にかけてようと思っていた梅の花はどれがそれとも分からない。雪が枝に積もっているのだ。)

「宴席に雪月梅花を詠む歌一首」 『万葉集 巻第十八』  
4134 雪の上に 照れる月夜に 梅の花 折りて贈らむ 愛しき児もがも  
右の一首、十二月に大伴宿禰家持作る。

(訳:雪の上に月が照っている夜に梅の花を折って送ってやるようなかわいい娘がいたらなあ。 大伴家持)

偕楽園の「観梅」が2月16日から始まりました。今年の冬は暖かい日が多かったので、例年より開花が早いようです。上に紹介した初めの二首は、大伴旅人が太宰府の長官であったときに催した「梅花の宴」で詠まれた作品です。梅は中国からもたらされた植物で、この時代は貴族たちが好んで屋敷に植え、その姿と香りを愛でました。中国から伝わり、その愛らしさと香りのかぐわしさによって好まれ、広まっていったようです。梅には桜のようなあでやかさはありませんが、春に先駆けて寒気の中ひっそりと花をつけ、凜として背筋が伸びた印象が伴います。毅然と花開く清廉な姿と、小さな花が寄り添う愛らしさが人の心を捉えるのかも知れません。寒さに耐えて人知れず花開き、毅然として何ものにも媚びず、しかしそのかぐわしさによって人を振り向かせる初春の花。そんな梅の花を目にすると、姿勢を正し、どんな寒さにも凍えずひるまず、春の陽射しを感じる頃に誰の手も借りずに静かに花を開かせる潔さに憧れ、自分もそうありたいと密かな願いを抱いたりします。卒業生の皆さんも、これからどんな寒さに出会おうとも潔く穢れない花を咲かせてほしいと願っています。幸多い未来を祈ります。